



[トップ](#) [暮らしの情報](#) [文化・スポーツ](#) [生涯学習・社会教育](#)

ひので映画大使最新版

[2015年6月2日]

第60回映画大使「あん」

- ・ 期日 平成27年5月26日(火曜日) ※試写会にて開催
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

ドリアン助川の同名小説を、世界を舞台に活躍する河瀬直美監督が映画化した人生ドラマ。小さなどら焼き屋で単調な毎日を送る、雇われ店長と、粒あん作りの腕を買われて働く事になった老婦人の心の交流と、次第に明らかとなる老婦人が辿った過酷な人生を人物に迫るタッチで描く。

主演には日本を代表する女優・樹木希林と、抜群の演技力をもつ永瀬正敏があたり、樹木希林の実孫・内田伽羅、独特の存在感を放つ市原悦子が脇をかためています。

今年の5月に開催されたカンヌ国際映画祭にて、「ある視点」部門のオープニングフィルムとして上映され、大絶賛されました。



(C) 2015 映画『あん』製作委員会 /
COMME DES CINEMAS / TWENTY
TWENTY VISION / ZDF-ARTE

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 感動しました！
- ☆ 樹木希林さんの演技がすばらしかったですね！
- ☆ 『あん』が美味しそうでした、食べたくまりましたね。
- ☆ こんなに難しい映画とは思いませんでした。



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

こんなに難しい作品とは思っていませんでした。『あん』の煮方が私の方法と違っていましたね。私は、『あん』を作る時には、小豆を洗ったらすぐに煮て良いもので、一度湯でこぼしたら、そのまま味付けをしながら煮るものかと思っていましたが、映画の中では、小豆を水に漬けて置いたり、湯でこぼした後にあくをぬくために水で流す事をやっていたので、プロはあのようにやるのかな、と思いながら観ていましたね。今度あのように煮てみようかと思いました。この映画は『あん』と、『社会に出て行けない人』という二つに焦点を当てた作品でした。

樹木希林さんの演技が、すばらしいかったですね！

Bさん

いい映画だと思います。是非、子ども達に観てほしいですね。私の年代ですと、終戦直後に学校などで病気の事を教えられて、鉄道に乗ったら必ず手を洗わなくてはいけないという事を言われていました。映画の中で、『ハンセン病患者を隔離しておかなくてはならないという法律』が廃止されたのが、1996年だと言われていました。私は、もう少し前だったように思っていたのですが、意外と最近まで続いていたのだなと思いましたね。法律が廃止される時には、新聞に法律廃止の賛否が載っていました。確か東村山市の方に隔離をしていた施設があったことを記憶しています。今まで新聞など、活字で病気のことを読んだことはありましたが、今回のように映画で事実を受け止めるような経験は初めてですね。

Cさん

1996年に『ハンセン病患者を隔離しておかなくてはならないという法律』が廃止された事を今日、初めて知りました。新聞では、なんとなく読んでいたのですが、ハンセン病に対する知識が無かったのは、医療の発達が遅れていたのだと思いますね。隔離されて、ひどい目にあって、女性は子ども産めなかったという時代でした。医学が発達した今に過ごせるのは幸な事だと思いますね。私は原作本を読んでいたのに涙が出ました。また樹木希林さんの演技がすばらしく、胸を締め付けられるような思いがしましたね。私の出身の地区でも、ハンセン病の方がいて、親達からはそういう人とは一緒に遊んではいけないと言われていましたが、同級生もいたので、気にせず遊びに行っていました。『あん』の煮方は母から教わって知っていたので、懐かしく観ていましたね。

Dさん

一番の衝撃は『あん』の煮方です。私は『あん』をよく作るのですが、圧力鍋などを使って簡単に作ってしまいます。この映画のように丁寧に『あん』を作ると美味しい物ができるのかなと、つくづく思いましたね。今度まねをして作ってみたいなと思いました。

感動しました！

Eさん

ハンセン病のことは、よく知らず、そのような事があるという事くらいの知識しかありません。こんなに身近に辛い思いをしている人がいるとは思いませんでした。私達は自由に何処にでも行けるし、何でもできるのに、ちゃんとしなくてはいけないなと思いましたね。同じような心の傷がある人達は感じあって、寄り添ってゆくものだなと感じましたね。病気に対して偏見を持っているという事は、今でも風評被害で大変な思いをしている人がいる事に重ねて観ましたね。もっと医学が発達してそういう思いをする人が少しでも減ってほしいなと思いましたね。

Fさん

こんな重い映画だとは思っていませんでした。ハンセン病はある程度は知っていましたが、隔離されるとは知りませんでしたし、子どもも産ませてもらえないという事を聞いた時は、え～、と思ってしまいましたね。私達は自由で、何でもできるいい世の中なので、できる事をもっとやったり、外に行ける立場にあるので、もう少し外にでたり、役に立つ事ももっとやってもいいのかなと思いましたね。『あん』の作り方ですが、『あん』は作った事は無かったのですが、お汁粉は良く作ります。お汁粉の作り方にも似た所があるのかなと思いながら観ていて、今度やってみようかなと思いましたね。

Gさん

結構重いテーマだなと途中から思いました。この作品は病気をテーマにしています。しかし、その病気の方たちは、そんなに苦しんでいるような描き方をしていなかったです。うまく他の会話や行動を使って、樹木希林さん演じる主人公が望んでいたことや、病気の重さを、静かに前面に出さずに、さりがなくてアピールしているのが、すごくまいな、と思いましたね。観ていて、ジワジワ来る感じがした作品でしたね。

Hさん

以前に樹木希林さんがこの作品が最後の主演かもしれないと言っていた事や、実のお孫さんと共演された事もあり、ずっと前からこの作品を観るのを楽しみにしていました。中には入ったことは無かったのですが、東村山市にあるハンセン病棟の近くまで行った事がありまして、本当に映画の中で描かれていたように、うっそうとした森で、森を見ただけで、本当はうつらない病気なのに隔離してしまっていた事など、人間の無知の象徴だと感じましたね。樹木希林さんが熱演されていて、人生の重み、散々苦労された重みを感じましたね。「私達はこの世を見るために、聞くために生まれてきた。・・・だとすれば、何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ。」という最後の言葉も良かったですね。ハンセン病で苦しんできた人が、恨み辛みとかではなくて、人生を乗り越えて悟りの境地を開いたような感じでした。樹木希林さんが演じる徳江さんは、『あん』でも、鳥でも、桜でも、風のなかの木の葉までも、みんな命があり、自分の子どもを愛するような感じで可愛がっていました。『あん』に声を掛けたりしていた姿をみて、情とどうか、心が伝わって来て良かったですね。

本当に感動する映画でした！

1さん

河瀬直美監督の作品をじっくり観るのが始めてでして、最初のカメラアングルからかなり人物に寄って撮影しているなと思いました。そのためか、ドキュメンタリーを観ているような錯覚を覚えましたね。実際にフィクションとはいうものの、ハンセン病施設を使っている事などでリアルに思えました。樹木希林さんが実のお孫さんと演じた事も、リアルさを増したのではないかなと思いましたね。西武線の電車が映ると、近くに住んでいるものとしては、西武線沿線の何処だろうかと気になるなど、自分と近いものを求めながら観ていたような気がします。私は市原悦子さんが大好きで、出演されることを知らなかったので、サプライズのプレゼントで、嬉しかったですね。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

- ・音や音楽の使い方がうまいなと思いましたね。『あん』を作っている音などの料理をしている音が効果的に使われていました。
- ・『あん』の艶が良くて美味しそうで、食べたくまりました。香りがしてきそうでしたね。
- ・実際に『あん』を食べているような気持ちになりました。
- ・風の音と、水のせせらぎの音のみのシーンがあって、とても緊張しました。
- ・桜の季節から紅葉の季節まで景色が素晴らしかったですね。
- ・出演者の髪の毛が季節とともに伸びていったのが、凄いなと思いました。
- ・出演者の演技や効果音など、全てが、凄く自然でしたね。
- ・河瀬監督の他の作品も観てみたくなりました。
- ・終わり方がよかったです。
- ・市原悦子さんの存在感は凄いですね。
- ・内田伽羅さんの演技は初々しくてよかったです。良い女優になると思いますね。
- ・町のどら焼き屋さんで、目の前で焼いているのは初めてみました。たい焼屋さんや今川焼屋さんはみますが、本当に実在するのでしょうか。あったらいいなと思いましたね。
- ・出会いは不思議で、一生が決まるような出会いをする事もあるものだなと思いましたね。
- ・すてきな映画でした。

まとめ

同名の原作は初版の発行部数こそ小規模ながらも、感動が人から人に伝わりロングセラーになっており、その内容を「カンヌ国際映画祭」でグランプリの受賞経験のある河瀬直美監督が、樹木希林を始め、魅力的な出演者を招き静かに丁寧に、そして斬新に作り上げています。

映像や効果音、音楽の細部にまで、こだわりがあり、『あん』を作るシーンでは、その場所の香りまでも伝わってくるようでした。

今回参加された映画大使の方にお聞きしたところ、ほぼ全員の方が再度この作品を観たいと思われ、なかなか複数回観たいと思わせる作品が少ない中、そう思わせたこの作品のパワーを感じます。

この作品は観た後、時間が過ぎた方が感動が強くなる事を感じ、そして、自分が自由であることの幸せと、「できることを何かしなくてはいけないな」と思わせる作品でした。

劇場の大スクリーンでは是非、ご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をすることが出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)

Copyright (C) Hinode Town All Rights Reserved.